



教会短信

2013年10月6日

No. 53

牧師 間瀬 善彦

大河ドラマ「八重の桜」が始まるまでは、新島八重という人がどのような生涯をおくったのかあまり知られていなかったと思います。わたしも実にそうでした。幕末から明治維新前後の日本は混乱の時代で、京都守護職として京都の治安を守る仕事を忠実に果たした会津藩は、そのために新政府の中心になった人たちから憎まれることになってしまいました。会津藩が新政府に従うことを何度も誓っても、新政府軍と会津で戦うことは避けることができなかったのです。会津戦争では八重の父親など多くの人が亡くなりました。

明治8年(1875)八重の兄、山本覚馬が、八重に聖書を学ばせるために宣教師の所へ行け、と命じます。これは八重が多くの犠牲者を出した会津戦争を経験し、新政府軍に対する憎しみが未だに消えなかったためです。八重は、「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」(マタイ 5:4)という聖書の言葉を学び、どうして悲しんでいる人が幸せなのか、と宣教師に質問します。すると宣教師は、悲しんでいる人その人のすぐそばには神様がいてくださいます。だから幸せなのです、と答えます。八重は聖書の言葉を最初は理解できなかったようですが、宣教師から聖書を学ぶことを通して、心が少しずつ癒されていったのではないかと思います。

新島襄と共に、同志社英学校(現同志社大学)を開校したのも明治8年です。キリスト教は江戸時代に禁止されていました。明治新政府は、欧米各国と結んだ不平等条約を改正してもらうため、その手段として、明治6年(1873)キリスト教を解禁します。同志社設立はその2年後になりますので、未だキリスト教に対する偏見や差別が根強く残っていました。校舎としてやっと借りられたのは、誰も借り手がいないボロ屋敷、町の人々からは石を投げ込まれ、ヤソは出ていけと言われながら、少しずつ生徒が集まっていきました。

わたしは新島襄と八重が同志社英学校設立のために、こんなにも苦労したことを知りませんでした。わたしたちも何か新しいことを始めようとすると困難は付き物です。当時、仏教が盛んな京都の町にキリスト教の学校を作るのは困難だったでしょう。新島襄は西洋の知識や文化だけを教えるのではなく、その知識や文化の根本にある聖書の教えを人びとに知ってもらいたかったのでしょう。

このような激しい困難に遭いながら、聖書の教えを伝えようとしたのは何か、と考えさせられます。新島襄と八重は、神の愛を1人でも多くの人びとに伝えたかったのだと思います。

「わたしとわたしの家は、主に仕えます」

ヨシュア記 24 : 15



私は、結婚を機に経堂教会に通うようになりました。以前は、恵泉バプテスト教会というところで教会生活を送っていました。私は、恵泉教会附属の幼稚園に通い、卒園してからは、毎週日曜日は教会に行く生活を続けてきました。就職したのも、自分が卒園した恵泉教会附属の幼稚園です。慣れ親しんだ場所ですくすく成長し、生活してきたのです。

幼稚園の仕事は、とてもやりがいがあります。子どもたちとすごす楽しい時間よりも、保育の準備時間、子ども一人ひとりの成長について話し合う時間の方がはるかに長いです。就職して初めの1,2年は、自宅に帰り、夕食を食べてすぐに気絶したように寝る毎日でした。3年目になると仕事にだいたい慣れてきたものの、仕事帰りに友だちとあそんで帰るゆとりのない日々を送っていました。

そんなある日、私を幼いころから知っている教会の方から、「ちょっと、会ってみたい？」と誘われました。私は、正直、どうしようか迷いました。しかし、職場の幼稚園は、女性ばかり。実際に会ってみて、たとえ自分に合わない人でも、これもひとつの経験だと思い、会ってみることにしました。そこで紹介されたのが、私の夫です。

彼は、学生のころから経堂教会に通っているクリスチャンです。私たちは、クリスチャン同士なので、教会の出来事を話していてもよく通じます。雰囲気や感覚に違和感がありません。彼も同じように感じてくれていたようです。そして、彼にプロポーズされ、今年の6月に結婚式を挙げました。

結婚生活を始めてみて思うのは、彼に出会わせて下さったのは、神さまなのだろうなあと思います。なぜなら、私ひとりの力では、彼に出会うことはなかつただろうと思うからです。そして、お互いの教会の方々の祈りもあって、今日があると思います。これから、私たち夫婦が生活していく中で、今は思いつかないようなことが起こるでしょう。しかし、どんな時も神さまと教会につながり、祈り合う生活を大事にしていきたいです。

聖書の言葉で磨かれた人たち

津田 梅子

本格的な女子教育の先駆者 1864-1929年

「女子英学塾」(現・津田塾大学)を設立し、日本の女子教育に大きな貢献をした津田梅子。明治に入り文明開化への意欲の高まりの中、明治4年、国費による女子留学生に選ばれたのが、後に教育者として立つ原点になりました。家族と離れ、わずか7歳で渡米。英文学などを学んで、18歳で帰国。この留学中に洗礼を受けました。帰ってきた時は、日本語をほとんど話せなくなっていたほど徹底した英才教育でした。

帰国後、彼女は英語教師などをしながら女子教育に従事しました。そして、キリスト教精神に基づいた女子英学塾を開校。それまで日本の女子教育と言えば行儀作法が中心で、高等教育は師範学校だけでした。そのような時代に本格的な高等教育を女子向けに行う場を作ったのは画期的な事でした。 参考資料・山崎孝子著『津田梅子』(吉川弘文館)

(『聖書の品格』いのちのことば社から引用)



教会バザー

11月17日(日)

午後12時30分～14時30分

今年もいろいろ用意しております。

お待ちいたしております。



聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

祈祷会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

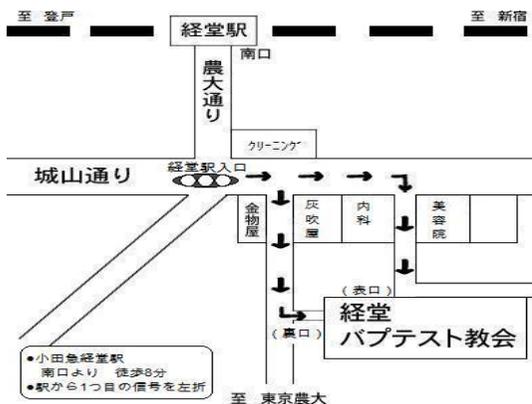
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。